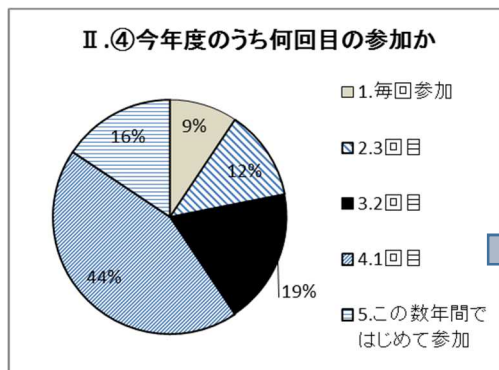
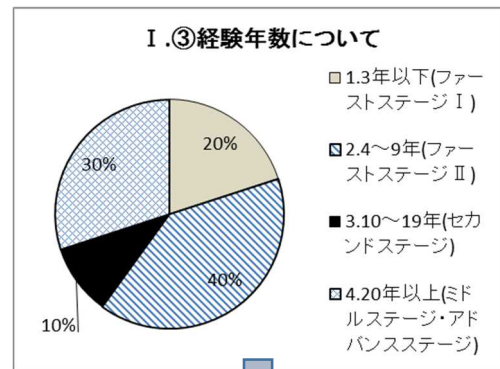
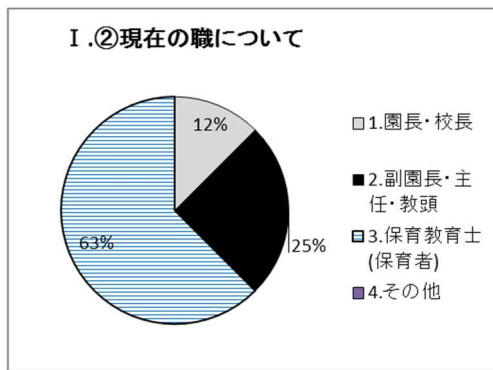


〈 第3回「こ幼保合同研修会」参加者（78名）アンケートより 〉

（平成28年10月28日実施）

(1) 参加状況について

▶今年度は、市立園の研修に私立・国立園へと参加対象を拡大し、参加を呼びかけた。毎回10人程度の私立園の参加があり、この回は特に多く、全体の約16%が私立園からの参加となった。



10～19年経験者の10%は、奈良市に中堅層が少ないことも影響していると思われる。

奈良市には、市立園51園に400人以上の教員等が在職しており、年4回の本研修には、

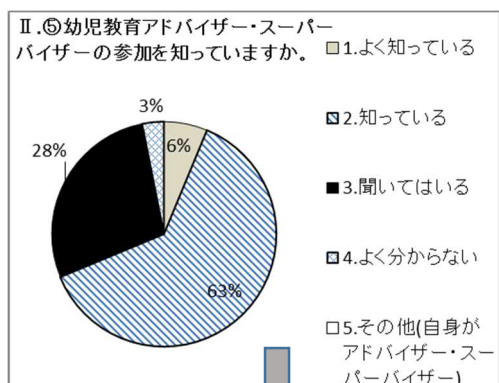
・各園の教員等が交代で参加している。

(=1回目の参加者が多い)

・保育所では、職員数が多く、参加したくても一度に出席できないといった現状がある。

(=数年間ではじめて参加する16%)

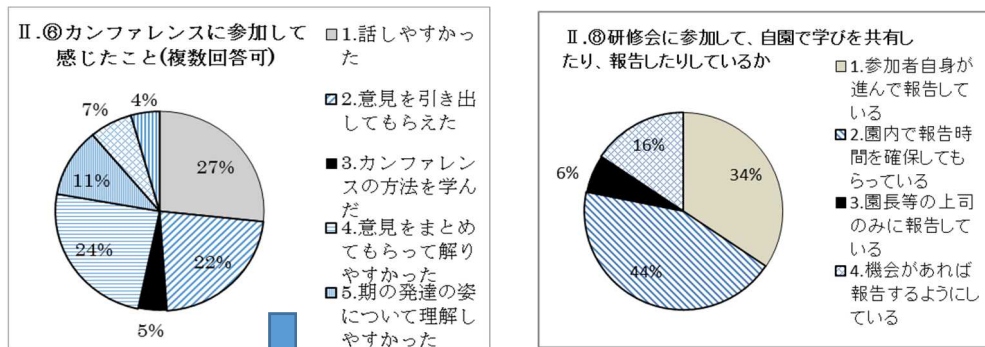
↓
研修での学びを自園に持ち帰り、学びを広めるための工夫が求められる。



幼児教育アドバイザー・スーパーバイザーの参加を知っている参加者「聞いてはいる」が28%と、自園等で聞いてはいたが本日の研修で初めて共に研修をしたという参加者も多い。

↓
本市の取組をさらに広げていくことが今後の課題

(2)参加後の感想・報告状況について



▶カンファレンスは参加者のポストイットを取り入れたワークショップ形式

・「話しやすかった」「意見を引き出してもらえた」 **51%**

⇒他園の教員等で行うグループ協議で、意見を出しやすい雰囲気がつくれるかということを進行者が意識して取り組んだ成果がうかがえる。

・「意見をまとめてもらって解りやすかった」 **24%**

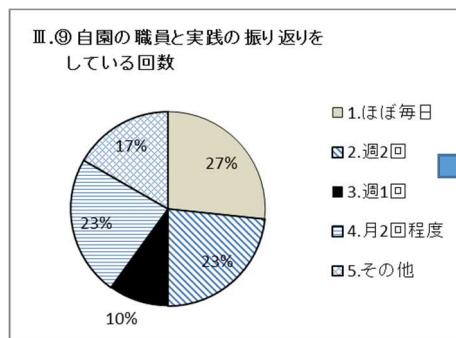
⇒進行者の統括が参加者の学びにつながっている。

(自由記述) カンファレンスの進行・統括を行っている幼児教育アドバイザーの役割について感じたことにも

○自分の意見、伝えたいことを的確にまとめたり、引き出したりしてもらって、とても重要な役割だと感じた。

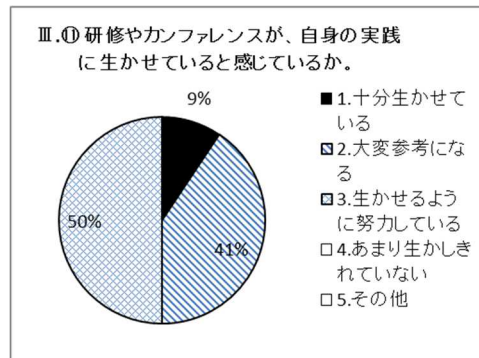
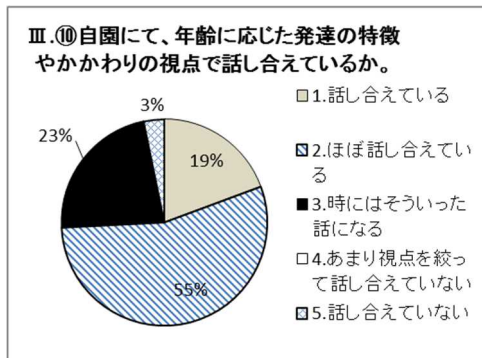
○様々な現場の実践者の話をそれぞれの立場で語れる仲立ちとなってもらい、参加している方も知識を得ることができる。など、同様の意見があった。

(3)自園での取組について



「その他」 **17%**

⇒カンファレンスの目的の一つに、普段自園でも実践後に振り返りを行う習慣を定着させることがあるが、参加者や園において、実践の振り返りを行うことを啓発していくという課題がある。





5) 研修の企画・運営と総括

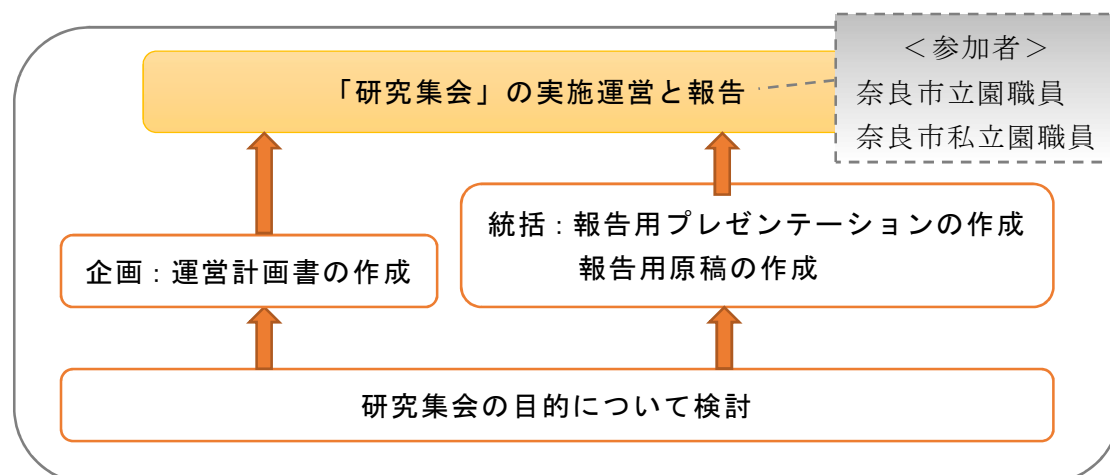
講座 12 研修の企画

< 目的 >

- ・奈良市で開かれる研修会や研究協議において、企画・運営、司会・進行を担い、参加者の経験や課題、目的に応じて進行や展開を工夫し、研修を円滑に実施できるようにする。

< 方法 >

- ・企画と計画書作成



< 内容 >

企画

- ・今年度の研究集会は、実施日を12月とし、実践研究の経過途中で行い、参加者から意見をもらい、今後の取組に生かせるようにする。

◇グループ協議

幼児教育アドバイザーとスーパーバイザーが2グループに分かれ、どのような報告会にするのかから検討して企画する力をつけるためにグループ協議を行った。

Aグループ

○どんな意見をもらったらすすめていけるか

- ・グループワーク：小グループ → 人数も企画する
- ・ポイントをどこにもっていくか。
- ・参加する対象は？ → 平日 2:30 頃~となると担任の先生は来られるのか？

○園内研修の進め方

- ・立場が違う → 「こんなアドバイスをしてほしい」
- ・ステージごとに分かれて話し合う
“カンファレンス” すすめる先生・参加する先生でも違う。
いろんなステージの先生への参加をつくる
- ・園内研のポイントのおき方も違う → もう少し具体的に話し合える内容にしてはどうか

○園の先生に何を伝えたいと思っているか

○どんな意見がほしいのか

Bグループ

○グループ討議のテーマについて

- ・実践で困っていることを知ることで、アドバイザーに必要な力を分かるのではないか。

- ・保育の中での具体的な悩み
- ・実践で何が困っているのか

○記録・事例のとり方の工夫や悩み

○環境構成や年齢をこえた保育の工夫や悩み

○どんな研修なら意見がでやすいか、何が学びにつながるかを出し合う

○報告内容について

- ・学んだこと

- 講座 {
- ・カリキュラムについて
 - ・要領改訂について
 - ・実践：カンファや事例等の進め方について

- ・成果と課題

- 実践 {
- ・カンファレンスの進行について
 - ・事例研修会について

- ・幼児教育アドバイザーとは何かを伝える
- ・一緒に教育・保育内容を高めていくために
実践研究を行っていることも伝えた方がよい



・・・といったことはどうか



講座 13 研修の運営

講座 14 研究集会における研究成果の発表と評価

<目的>

- ・ 研修を企画し、実際に運営することを通して。課題に応じた研修の企画・運営に関する総合的な技能を向上させる。
- ・ 事例研修会「実践事例報告会」、こ幼保合同研修会として開かれる公開保育研究会、本事業の報告会「研究集会」、研究協議において、企画・運営、司会・進行を担い、参加者の経験や課題、目的に応じて。進行や展開を工夫し、研修を円滑に実施できるようにする。

<方法>

- ・ 幼児教育アドバイザーによる企画・運営

講座 15 総括：実践研究における報告と熟達過程の省察

<目的>

- ・ 実践研究の手法について熟知し、研究を遂行するとともに、研究成果を適切に位置づけることのできる能力を向上させ、実践研究の指導・助言や統括を行える力を養う。
- ・ 実践への適切な指導・助言、解説に向けて実践を理論的に捉えて分析する能力を向上させる。

<方法>

幼児教育アドバイザー（受講者）による実践研究

(1) 「研究集会」での実践報告

開催日：平成 28 年 12 月 12 日

開催場所：ホテルリガーレ春日野

(2) 報告書作成（※第 3 章に掲載）

- ①：研究テーマと方法の設定
- ②：記録と分析
- ③：考察と報告



<内容>

「研究集会」報告内容より(抜粋)

(1) 幼児教育アドバイザー講習 ～講座の種類と内容～

講座 3,4,5 (演習)

- 講座3 幼稚園教育要領改訂に向けて
- 講座4 保育所保育指針中間とりまとめ
- 講座5 幼保連携型認定こども園教育要領の改訂に向けて

「講座3・4・5の演習では・・・
 ・これからの奈良市の保育教育の更新に欠かせない作業をしているのではないかと、自分の置かれている立場の重要性に気が付いた瞬間でした。
 ・幼稚園・保育所・こども園で育った3歳 4歳 5歳児は同じ学びを保障されていなければならない・・・乳幼児保育の充実を促したりする内容であつたりしました。」

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

「…これは幼児教育だけでなく18歳までを見通した学びと育ちを保障していくため1本の柱をつくっていきましょうというものでした。…この10の姿を受けて小学校以上の学校は、知識や技能・判断力・表現力・人間性などの資質、能力が育っていくと思われます。5歳児後半から修了の時期の子供の姿を、保育教育士も小学校の教師も共有することになり、小学校教育と幼児教育との接続の一層の強化が期待できるものと思います」

幼児教育アドバイザーに求められること

- 専門的知識の保有
- 実践の指導、助言
- 研修の企画、運営
- 実践研修の推進、統括

「日々の保育の実践をみとるときのポイントが明確になってきたり、カリキュラムの言葉の奥に隠れている意味が少し理解できるようになってきたり、カンファレンスを進めるコツがつかめてきたりしているのは事実です。今後この講座で学んだことを自園の職員集団はもちろん奈良市の保育教育の向上のために発信する役割を感じています。」

(2) 園外での実践
 ～事例部会研修会～

アドバイザーってなあに?

《事例部会研修会》

- 事前 事例をしっかりと見る
- 当日 読み解きをする
- 後日 『完成版』を作成

「…当日の話し合いでは、グループで選出した事例をもとに、読み解きをしていきます。その際に、「よかった点」「参考になった点」「もう少し聞きたい点」「自分ならこうするかな」という意見がいろいろ出てくるようにポストイットの色を変えて記入してもらい、事例に直接貼りながら話し合いを進めていっています。」

当日 読み解きをする

普段のA児の姿を書き足すと、よりわかりやすい

この時期、「見守る」という援助は、とても大切

この時期らしい姿が表れている

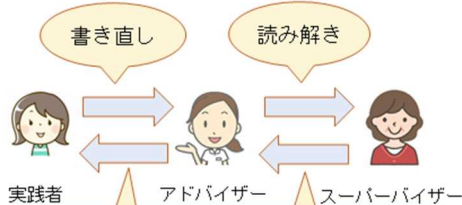
このA児って普段どんな子？

「様子を見守る」と一文で書くと、より大切さが伝わる

意見を引き出す！

**《アドバイザーの役割》
進行・統括**

後日 『完成版』を作成



**《アドバイザーの役割》
参加者の意見をもとに、実践者と読み解きを深める！！**

「また、話し合いが滞った場合にはアドバイザーの意見を出し、参加者の先生方に意見を求めるなどして、話し合いを進めていきます。…参加者の先生方の意見を引き出すことを意識しながら行っています」

《学び》

- **会の進行**：進行の流れがわかってきた
- **カリキュラムの理解**：「コンセプト」が深まった
- **事例の理解**：読み解くポイントがわかってきた

《課題》

- 時間配分を行う
- カリキュラムの理解に努める

「アドバイザーとして、
《事例研修》を
経験していく中で…」

～こ幼保合同研修会 カンファレンス～

**《こ幼保合同研修会》
(カンファレンス)**

事前 『年齢に応じたカリキュラム』
○ 歳児〇期の表を頭に入れる

当日 進行・統括



「…当日は、実践保育を参観する中で、自分なりの見方や考えをもっておき、参加者の先生方の意見を聞きながら、その日の話し合いのポイントになる課題を導き出し、その課題について話し合いを深めていきます。担当の園長のスーパーバイザーも一緒にカンファレンスの場に来てくださり、終了後指導・助言をしてくださいます。」

カンファレンスをするための心がけとして…

- 『話題』 本日の保育実践での課題は？
- 『時間』 時間配分は？
- 『報告』 何を報告するの？
- 『参加者』 メンバーの構成は？

《カンファレンスの様子》

可動式のお店で、自分たちで準備しやすい。また、4歳児に扱いやすい道具が準備されていた。

「お店の人に聞いてごらん」と、保育者がすぐに答えを出さず、お店の人とお客さんをつなぐように声をかけていた。

声をかけられずにいる子にすぐに気づき、一緒にお客さんになって遊びに入りやすくしていた。

フライパンやトングなど、本物を準備してあり「やってみたい!!」と思えるような環境。

意見を引き出す!

《アドバイザーの役割》 進行・統括

○ 意見をまとめながら「課題」を見つけ出すってむずかしい・・・

○ 自分の意見をしっかりと持っていかない話し合いを進めていけないあ・・・

☆ 意見を聞きながら、共通する「課題」を1つ見つけて、それについて参加者の先生たちに意見を求めていけばいいのよ!

アドバイザー

スーパーバイザー (園長)

《学び》

- 意見をまとめ、「課題」を見つける力
- 保育実践の中での自分の意見

《課題》

- ☆ 「課題」を明確化
- ☆ 視点がずれない見方・考え

「実際のカンファレンスを行ったことで、ただ遊びの共有をするだけでなく、参加者の先生方からいろいろな意見を引き出し、まとめていながら「課題」を見つけていく力が必要であること、また、視点をもって実践保育を参観し、自分の意見をしっかりと持つておくことが大切であることがわかりました。」

(3) 園内での実践 ～日々の保育実践における指導助言～

日々の保育実践における指導助言

- 目的
実践者への指導・助言を通して、実践者の課題に即した指導・助言の技術を向上させる。
- 自園での調査研究
日々の保育実践において指導・助言を行う。

各自園での、保育実践の指導助言実践

【困りごと】
指導助言の在り方について


【スーパーバイザーからの指導助言】
保育者の意図の把握
保育に入り込み過ぎない事など

行政職のスーパーバイザー

【その後…】
保育を客観的に見る目

学び

- 自分の気付きの伝え方、指導助言の工夫
 - 具体的な手立てを話し、一緒に考える
 - 対象の先生（経験年数など）によっての伝え方の工夫
- 園内での指導助言の方法としての工夫
 - 実践者の意図を把握してからの助言
 - 明日につながる具体的な手立てを共に考える
 - 保育に入り過ぎない




結果

会話が
増えた
 → 疑問は
その都
度解決
 → 保育が
楽しい
 → 子どもの
変容

「…例えば、選択肢を複数用意し、先生が自ら取捨選択できるようにする。選択肢を複数用意すると戸惑う先生には、最適と思われるものを提案し、それを元に自ら考えていけるようにする。自らの考えを出しにくい先生には、一緒に考えながら、思いや願いを引きだしていけるようにする、などです。」

学び

- 園内での日々の保育の振り返りなど行う時間の確保の仕方
 - 時間を短縮する記録の工夫



- 指導助言においての、アドバイザー自身の保育観や感性の重要性
 - 自身の視野を広げていく工夫

「例えば、職員室に振り返りシートを貼った用紙を用意し、その周囲に他の先生が気付いたことをその都度書き込めるようにしました。」

「視野を広げる為にも、公開保育（市内・他都市も含め）に参加したり、資料を取り寄せ学んだり、他校園種の先生との交流など、自ら積極的に学ぶ姿勢の大切さを学びました。」

《学び》

- 意見をまとめ、「課題」を見つける力
- 保育実践の中での**自分の意見**

《課題》

- ☆ 「課題」を明確化
- ☆ 視点がずれない見方・考え

「実際のカンファレンスを行ったことで、ただ遊びの共有をするだけでなく、参加者の先生方からいろいろな意見を引き出し、まとめていながら「課題」を見つけしていく力が必要であること、また、視点をもって実践保育を参観し、自分の意見をしっかりと持っておくことが大切であることがわかりました。」


～カリキュラムの解説について～

カリキュラムの解説について

- 目的
 - 各年齢の子どもに保障する育ちやカリキュラムのねらい・子どもの姿・内容・援助・環境構成について、実践に即した指導助言ができるようにする。
- 自園での調査研究
 - 園内研修会を企画し、「奈良市こども園カリキュラム」のプレゼンテーションを用いて解説を行い、園内の全職員がカリキュラムについて理解を深められるよう、その方法や指導助言の工夫について探る。

自園での、カリキュラム解説

実践①
『乳児期のカリキュラム』
対象者…自園の0～5歳児クラス担当の保育者
幼稚園の4.5歳児クラス担任



初めて知ることが多かったです。よく分かりました。

乳児担当制について、もう少し教えてください。

乳児期の学びや育ちが、幼児期の終わりにどのような子どもの姿につながるのかな。

行政課のスーパーバイザー

自園での、カリキュラム解説

実践②
『特色ある活動（世界遺産学習）』
対象者…自園の5歳児クラス担任
小学1・2年生のクラス担任

図もいいけれど、文章表記の方が分かりやすいのではないかな。

遠足など、教育的な意義を持って計画してるんですね。

幼児期からの経験が、その後の学習にいかされるのではないかな。

奈良市のこども園としての取組やねらいを的確に表現していこう。

行政職のスーパーバイザー

「奈良市として取り組んでいる「カリキュラム」をより理解してもらえるように分かりやすく且つ、的確に伝えられるようになる為にも、まず自身がしっかりと読み込み、理解することが必要不可欠であると思いました。」

「事前に何度も読み返し、リハーサルを行いました。自分は分かっているつもりでも、初めて聞く先生方には伝わりにくいことも多々ありました。また、手元カリキュラムがない状態で聞く場合も想定し、図や表を拡大表示し、ゆっくりはっきりと話すことも、伝えていく手段として、とても大切であることがわかりました。」

学び

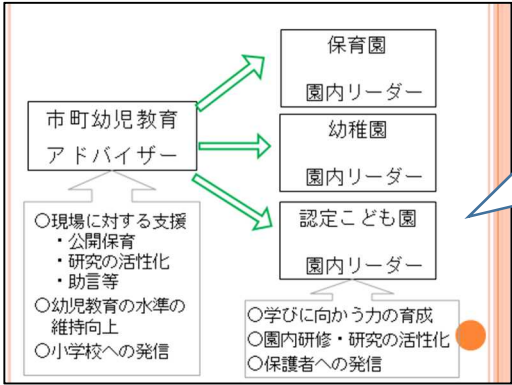
- カリキュラム解説の必要性と、カリキュラムに照らし合わせた指導助言の重要性
 - アドバイザー自身がカリキュラムを読み込む
- カリキュラム解説（プレゼンテーション）の内容理解
 - 深く学ぶ機会と、平成28年度版の更新
- カリキュラム解説の方法と課題
 - 深く学ぶ機会と、平成28年度版の更新

「スーパーバイザーの先生やプレゼンテーションを作成された2年目のアドバイザーと一緒に学ぶことは、カリキュラム理解の深まりと同時に解説の更新につながりました。」

まとめ

- 人に伝えていくことの難しさ
- 人に分かってもらおうと努力
- 多くの学び

(4) 視察研修 ～福井県鯖江市ゆたかこども園～



「福井県の幼児教育アドバイザーシステムです。…今回福井県の幼児教育アドバイザーの幼児教育相談巡回訪問に参加させていただきました。」



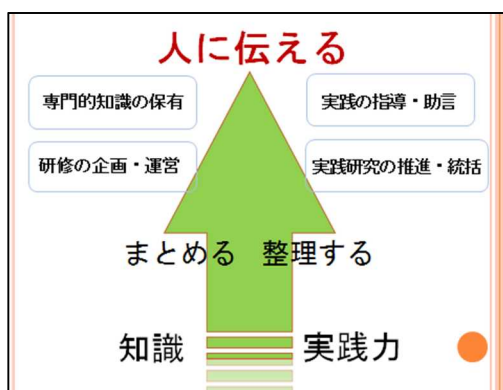
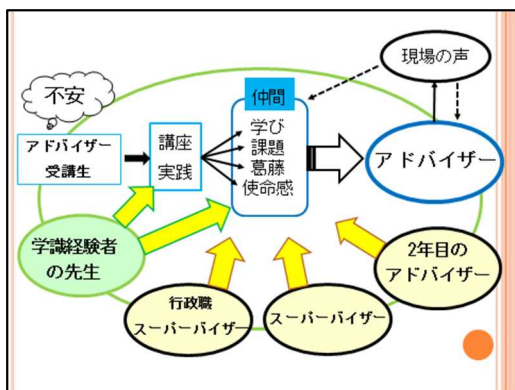
「幼児教育アドバイザーの方の話を聞いて、学んだことは、

- ・園の特徴を理解し、その良さも伝えていく。
- ・幼児教育の向上など、同じ方向で進めていき、「これならやれるかも・やってみたい」という意欲や自信を持てるようにしていく。
- ・遊びの中での学びを意識して進め、先生たちの見えていない部分の子どもたちの学びを伝えていく、等の視点でアドバイスをされていることを教えていただきました。

「カンファレンスでは、具体的に丁寧なアドバイスをすること、先生のやってみたいという意欲につながるような助言を意識すること、幼児教育の在り方についての話し合いをもとに、環境に高められるように進めていくことが大切だと感じました」

(5) 全体のまとめ ～アドバイザーの受講を通して～

「アドバイザーの受講を通して講座を受講して、専門知識や学び、カンファレンス、事例での実践、カリキュラム解説の検討、解説、視察研修など、様々なことを学ぶことができました。」



「幼児教育アドバイザーとして、…4つの資質・能力をつけるために、知識や実践力を土台に、学びや実習、自分の考えをまとめたり、整理したりなどをして、先生方や周りの方々に伝える。人に伝えることが必要で、アドバイザーの力量になってくると感じています。これは、アドバイザーに限ってではなく、奈良市の保育・教育にかかわっているみんなの力になることが意味のあることだと思っています。

次のアドバイザーは自分だと、意識を持って、研修や実践を積極的に進めて行きましょう。



■研修終了後の参加者によるアンケート調査

(問) 講演についての感想・意見について

- 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿など、改訂で加わることを具体的に分かりやすく教えてもらいました。その中で、変わらない所もしっかり見つめ、何が大切かをしっかり捉え、18歳に成長した子供を考えながら実践を充実させていきたいと思いました。幼児の発達段階をしっかりふまえ、今まで幼児教育で大切にしてきたことを更に大切にしていきたいと思います。
- 幼児教育の改革の動向について、資料に沿って話していただいたので、とても分かりやすかったです。子供の育ちと学びをつなぎ、支えるために個で取り組むのではなく、園、市の保育力を目指すとありましたが、改定のポイントをおさえて、園で子の育ち、学びの捉えを共通理解し、足並みをそろえて、保育、園運営に努めなければならないと感じた。
- これから幼児教育がどう変わっていくのか、そして、今、私たちは何をしていかなければいけないのかということ、具体的に教えていただきました。一人一人の力量を高めるだけではなく、全体で高まりあい横と縦をつなげていくことの重要性を教えていただきました。
- 国の動向を知ることができ、今すべきことの話が大変参考になった。10の姿について学ぶことができた。5領域をまず、しっかりと抑えることの大切さを確認できた。
- 幼児教育改定に向けて意識改革が求められ危機感を覚えるが、できることから少しずつ取り組まなければと痛感した。変えなければならないこと、変えてはいけないことをしっかりと見極めたい。
- 幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿について改めて意識しながら5領域のねらい、内容を積み重ねていくと10の姿が育っていくことを確信した。
- 資質・能力の3つの柱となる力やトリプル改定のポイントとなることを聞かせていただき大切なことを再確認させていただきました。幼児期の試行錯誤の大切さをあらためて感じ環境構成や保育内容を園で見直していかなければと思いました。
- 変化していく社会に対して、幼児教育も変わっていかなければならないということをしっかり教えていただきました。
- トリプル改定と今後の教育・保育に向けての展望を知ることができた。幼児教育アドバイザーの意義、活動内容をよく理解できた。
- 学習指導要領が変わることは知っていたが具体的にどういうことか知らなかったので、今回、講演を聞くことで、初めてこういうことなんだということを知ることができ、有意義なものとなりました。
- 今までの幼児教育が大切にしてきたことと、改定のポイントとの位置づけや実践の中で見取っていく子供の育ちへの考え方を知ることができました。改定になったときにあわてずに実践していけるよう、今から学びを深めていきたいと思います。
- いつもながらの軽快なテンポで、私たちがこれからのことで今一番知りたいことについて話していただき、どんなふうに改定されるのかがよくわかりました。自園での実践を見つめ園全体で高まっていけるようにしたいと思います。

○保育所、幼稚園、こども園の3歳以上の幼児教育の共通化をしていくにあたり、今後も市内の教員等の中でもう一度「幼児教育」の在り方を同じ思いで考えていくことがより大切になっていくと感じた。また、改定のポイントを押さえつつ、これまで大切にしてきた遊びや環境についても、しっかり見直していきたい。

○幼児教育の改革について、横と縦の連続性の改革がとてもよくわかりました。幼児教育の根本である遊びを通しての総合的な指導を今後も大切にしていけないと感じました。

